

LNG廃冷熱を利用した有機性廃棄物の凍結乾燥処理と飼料化

広島大学地域共同研究センター 正会員 今岡 務
広島大学大学院工学研究科 学生会員 ○細井啓示

1. はじめに

LNG(液化天然ガス)は、クリーンでかつ安全なエネルギーであり、石油とともにわが国の基盤的なエネルギー源となっている。このLNGは、-162℃という極低温で冷却液化され、輸入、貯蔵されている。そして、都市ガスとしての利用時には、再気化されて供給されるが、その製造過程において、気化冷熱が発生しており、この冷熱の有効利用がLNG基地の課題の一つとなっている。

本研究では、広島県廿日市市にあるLNG基地と本市域を対象に、LNGタンクからの廃冷熱を利用して凍結乾燥処理によって、スーパー、食品工場などから発生する有機性廃棄物を飼料へと再資源化するローカル・ゼロエミッション構想の検討を行っている。本報では、凍結乾燥処理可能量、本地域における食品系廃棄物の収集量および飼料受入量の調査、予測を行い、本構想の実現可能性について検討した結果を報告する。

2. 調査内容および結果

(1) 凍結乾燥処理可能量

LNG 1t から発生する冷気は、20万kcal/t の冷却エネルギーを有しているとされる。ここで、定常的に取出せる冷却エネルギー量をLNG量で1t/h と仮定すると、有効利用可能な冷却エネルギー量は 480 万 kcal/日 (=20 万 kcal/t × 24t/日) となる。また、1t の水分を凍結乾燥処理するために必要なエネルギーは 85.2 万 kcal/t·H₂O であり、そのうち冷却エネルギーは、4.4 万 kcal/t·H₂O 必要である。

よって、乾燥可能水分量は 109 t·H₂O/日 (=480 万 kcal/日 ÷ 4.4 万 kcal/t·H₂O) となる。食品系廃棄物の水分量を 95% と仮定した場合、乾燥処理可能廃棄物量は 115 t/日 (=109 t·H₂O/日 ÷ 0.95) となり、乾燥処理物としての飼料生産量は 5.8 t/日 (=115 t/日 × 0.05) と推定できる。

(2) 食品系廃棄物の収集量

Aスーパー（推定年間売上高：4.4億円）において、1日に廃棄される食品量の調査を行った。表-1に特に廃棄量が多くかった惣菜の詳細を、表-2に鮮魚の詳細を示す。また、食品種ごとにまとめた発生量と単位売上高当たり廃棄量を求めた結果を表-3に示す。これより、Aスーパーの1日の総廃棄食品発生量は32.6kgであり、単位売上高当たり廃棄量は2.71

表-1 廃棄食品（惣菜）の詳細

食品種	商品名	単位重量(g)	個数	総重量(g)
惣菜	串カツ	93	4	372
	トンカツ	139	4	556
	アジフライ	121	2	242
	エビ串団子	104	1	104
	白身フライ	121	1	121
	鶏の唐揚	184	1	184
	春巻	103	1	103
	メンチカツ	153	1	153
	カニコロッケ	147	1	147
	野菜ロカック	239	1	239
	肉コロッケ	312	1	312
	竹の子煮付	81	4	324
	ひじき煮付	50	8	400
	ざんまい煮付	50	6	300
	千切大根煮付	54	1	54
	ゴボウキンピラ	84	2	168
	莢前煮	139	7	973
	里芋煮付	99	2	198
	高野豆腐	132	5	660
	味付玉子	100	1	100
	おでん	295	5	1475
	うぐいす豆	117	3	351
	山菜あさり	73	5	365
	大根酢物	87	5	435
	キクラゲ酢物	64	3	192
	ポテトサラダ	106	2	212
	トンカツ弁当	439	1	439
	おにぎり	116	2	232
	六子入巻寿司	308	1	308
	上巻寿司	333	1	333
	合計			10.1kg

表-2 廃棄食品（鮮魚）の詳細

食品種	商品名	単位重量(g)	個数	総重量(g)
鮮魚	きはだまぐろ	85	1	85
	きはだまぐろ	91	1	91
	きはだまぐろ	89	1	89
	きはだまぐろ	89	1	89
	めんたい切り身	177	2	354
	めんたい切り身	118	1	118
	ふぐさし	50	1	50
	さしみ盛り合わせ	180	4	720
	きはだまぐろ	120	2	240
	めんたいさしみ	115	1	115
	生さけ	139	1	139
	このしろ	224	3	672
	天然小だい	222	2	444
	天然小だい	333	3	999
	生むきえび	104	1	104
	あさり	200	4	800
	無頭えび	107	5	535
	地物満だこ	66	1	66
	すじこ	113	1	113
	あじみりん	94	2	188
	さわらみりん	232	1	232
	焼きあなご	104	1	104
	生あんこう鍋セット	306	2	612
	合計			7.0kg

t /億円 ($= 0.0326t \div 4.4/365$ 億円) と推定された。

この調査結果をもとに廿日市市域にあるBスーパー、Cコンビニエンスストア(推定年間売上高: 150億円、20億円)の廃棄食品量を予測した。この2企業における1日当たり売上高は0.47億円/日であり、前述した単位売上高当り廃棄量より、廃棄食品予想収集量を推算した結果、1.3t/日($= 2.71t/\text{億円} \times 0.47\text{億円}/\text{日}$)となった。

(3) 飼料受入量

広島県D乳業では、乳用牛を180頭飼育しているが、泌乳牛、肥育牛をそれぞれ90頭飼育していると仮定して飼料摂取量を計算した。泌乳牛の飼料摂取量は、平均的な泌乳牛の体重を650kg、乳量を30~35kg/日と仮定すると、粗飼料で15kg/日(体重の2~3%)、濃厚飼料で10kg/日(乳量の1/3~1/4)が必要となる。また、肥育牛の飼料摂取量は、体重を500kgとすると、粗飼料の必要量は10kg/日(体重の2~3%)となる。

以上より、D乳業では、粗飼料2.3t/日($= 15\text{kg}/\text{日} \times 90\text{頭} + 10\text{kg}/\text{日} \times 90\text{頭}$)および濃厚飼料0.9t/日($= 10\text{kg}/\text{日} \times 90\text{頭}$)の受け入れが可能と推定された。

3. 考察

得られた廃棄食品予想収集量、凍結乾燥処理可能量および飼料受入予想量を図-1にまとめた。凍結乾燥プラントの処理能力は、対象収集地点での発生量を上回っており、収集地点の拡大にも対応が可能であることを示唆した。また、飼料生産能力としても飼料受入予想量を上回ったことから、受入地点拡大の可能性も示された。

今後、このような量的なバランスに加えて、飼料としての栄養特性など質的な観点からの検討が課題となる。廃棄食品は植物系、動物系と多様であり、表-4に示すように鮮魚ではたんぱく質が多く、精肉ではたんぱく質、脂質が多いという特徴を有している。また、その他の品目では、可溶無窒素物の割合が高いことが注目される。この可溶無窒素物は、主としてデンプン、糖類などの有機物とされるが、飼料としてのバランスのとれた乾燥処理物を生産するためには、これらの適切な配合が求められる。

本システムの実践に向けて、アンケート調査、ヒアリング調査などにより、今後さらに詳細な検討を行う予定である。なお、本研究は文部省科学研究費補助金の特定領域研究「ゼロエミッションをめざした物質循環プロセスの構築」の中で進められているものであることを付記して、謝意を表する。

表-3 廃棄食品発生量と単位売上高当り廃棄量

食品種	発生量(kg)	単位売上高あたり廃棄量(k/億円)
鮮魚	7.0	0.58
肉	3.8	0.32
パン	0.2	0.02
生菓子	0.05	0.004
和菓子	0.05	0.004
練製品	1.7	0.14
豆腐・納豆類	0.05	0.004
惣菜	10.1	0.84
野菜	3.1	0.26
鮮魚調理残滓	6.5	0.54
合計	32.6	2.71

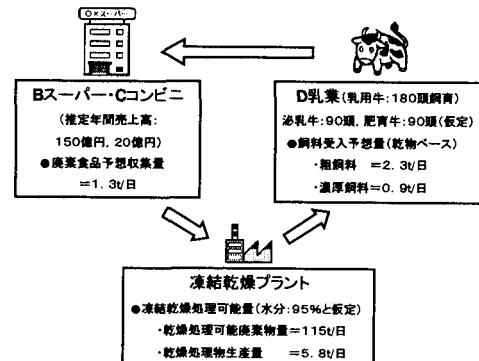


図-1 マテリアルバランスの推定結果

表-4 廃棄食品の栄養成分

部門	商品名	乾物ベース				備考
		たんぱく質(%)	脂質(%)	繊維(%)	灰分(%)	
鮮魚	きはだまぐろ	92.4	1.9	0.0	5.3	0.4
	ふくさし	93.5	0.5	0.0	5.6	0.5
	生きけ	67.4	27.4	0.0	4.9	0.3
	このしお	65.3	27.5	0.0	5.8	1.4
	生むえび	84.2	4.8	0.0	10.9	0.0
	あさり	62.9	7.6	0.0	20.5	9.1
	無頭えび	84.2	4.8	0.0	10.9	0.0
	地物邊だこ	91.2	2.9	0.0	5.5	0.4
	あじみりん	68.8	25.4	0.0	5.5	0.4
	さわらみりん	64.0	30.9	0.0	4.8	0.3
精肉	焼きあなご	59.7	35.2	0.0	5.2	0.0
	生あんこう 鰯セット	89.5	3.8	0.0	6.2	0.5
	牛ロース	36.2	61.4	0.0	1.8	0.7
	若鶏モモ肉	67.9	27.9	0.0	3.8	0.4
	ロースハムスライス	46.9	39.4	0.0	10.3	3.4
	パン ヤマザキヨーグルドソフト	13.5	6.1	0.2	2.7	77.4
	生菓子 カスタードケーキ	9.9	19.1	0.1	0.9	70.0
	ちくわ	39.5	6.8	0.0	10.0	43.7
	練ちくわ	39.5	6.8	0.0	10.0	43.7
練製品	かまぼこ	46.9	3.5	0.0	11.7	37.9
	そば	15.0	3.1	0.6	0.6	80.6
	納豆	40.7	24.7	5.7	4.7	24.2
	キャベツ	18.4	1.3	7.9	7.9	64.5
	大根	14.5	1.8	10.9	10.9	61.8
	白ねぎ	13.1	1.2	9.5	6.0	70.2
	春菊	34.6	1.2	11.1	19.8	33.3
	れんこん	11.2	0.0	3.2	5.3	80.3
	白菜	26.8	2.4	9.8	14.6	46.3
野菜	バナナ	4.4	0.4	1.2	3.6	90.4

参考文献: 四訂食品成分表